学校番号	１０１０

令和５年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	日本史Ａ	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	高等学校「日本史Ａ」　　（清水書院）						
副教材等	新詳日本史　（浜島書店）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

日本史には数々のドラマがあって面白いと思います。ただし、事実を考えて追っていくので、論理的な思考力が必要です。また、「なぜ？」を楽しむという謎解きを楽しむ好奇心も必要です。

学習方法としては、教科書中心の勉強を心がけてください。教科書をよく読み、その内容をまとめたりすることが、その時代の流れを理解する手助けになります。

２　学習の到達目標

日本の近現代における歴史について、欧米列強や中国、朝鮮半島などの諸外国などとの対外交流も含めて、どのように展開していったかを総合的に考察、理解する。また、日本の政治・経済の動きだけではなく、近代文学・芸術などの発展やその特徴についての知識を身につける。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c: 資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	我が国の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究し、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責任を果たそうとする。	我が国の歴史の展開から課題を見いだし、国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察し我が国の文化と伝統の特色についての認識を深め、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて総合的に理解し、その知識を身に付けている。
評価方法	学習状況の観察 ノート・プリント	学習状況の観察 ノート・プリント 定期考査	学習状況の観察 ノート・プリント 定期考査	学習状況の観察 ノート・プリント 定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	近代の日本と世界	1. 幕藩体制の動揺 2. 明治維新と近代化 3. 立憲政体の成立	○ ○	 ○ ○	○	○ ○ ○	a:幕藩体制の崩壊から中央集権化の過程、日清・日露戦争の経過について課題意識を持って、意欲的に追求している。 b:幕藩体制の崩壊から中央集権化の過程、日清・日露戦争の経過について総合的に判断し多面的・多角的に考察している。 c:幕藩体制の崩壊から中央集権化の過程、日清・日露戦争の経過に関する文献や写真などを活用し、諸資料の持つ意味を読み取ることができる。 d: 幕藩体制の崩壊から中央集権化の過程、日清・日露戦争の経過に関して諸外国の動向と関連つけて理解し、その知識を身につけている。	学習状況 ノート プリント 定期考査
2学期	大戦期の世界と日本	1. 第一次世界大戦と日本 2. 第二次世界大戦と日本	○ ○	○ ○	 ○	○ ○	a:２つの世界大戦の背景・原因・経過・影響などについて現代に通じる課題意識を高め、意欲的に研究している。 b:２つの世界大戦の原因・原因・経過・影響などについて国内情勢と世界の動向を関連付けて多面的。多角的に考察している。 c: ２つの世界大戦の原因・原因・経過・影響に関して写真・文献・映像・統計などの諸資料を活用しその内容を読み取ることができる。 d: ２つの世界大戦の原因・原因・経過・影響に関して国内の政治・経済の動向と国際情勢を関連付けながら理解し、その知識を身につけている。	学習状況 ノート プリント 定期考査

3学期	現代の世界と日本	1. 戦後政治の動向 2. 経済の発展と国民生活 3. 現代の日本と世界	 ○	○ ○ ○	 ○ 	○ ○ ○	a:戦後日本の歩みと世界情勢の推移についての関心と課題意識を高め、意欲的に追究している。 b: 戦後日本の歩みと世界情勢の推移について、相互の動きを関連付けて多面的・多角的に考察している。 c: 戦後日本の歩みと世界情勢の推移に関する文献、映像、統計などの諸資料を活用することを通して、歴史的事象を追究する方法を身につけるとともに、追究し考察した結果を適切に表現している。 d: 戦後日本の歩みと世界情勢の推移についての基本的な事柄を、世界の動向と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。	学習状況 ノート プリント 定期考査

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。